

又太平洋に對する魯國政策の目的は單に英國の勢力を殺
くもの外ならず即ち英國の固結集合せる勢力を分散せ
しめ而して其弱隙に乗じて大望を果たさんと欲するもの
に外ならず予東方策に於て已に亦之を論じたりき
英國全權大使として支那に駐在せしエルギン公曾てイ
グナチエウ將軍に問て曰く何故に魯西亞は太平洋に海
軍港を得んことに斯くの如く汲々たるや將軍之れに答
へて曰く我黨魯國人は自國の直接の利益を保護する爲
めに之れを要せざるなり然れども英吉利人をして魯國
と仇敵たらしめんより寧ろ國友たるの優れる地位を魯
國が有することを主として自識せしめるが爲なりと余

之れを解して曰く魯國の政策の在るところは英國の太
平洋に獨り其國勢を擅にすることを牽制するに在り
畢竟するに魯國の東洋に對する政策は英國を間接に攻撃
するの政略なる而已魯國の目的とするところは日本にあ
らず支那にあらず正しく英國にあり故に西比利亞鐵道の
成功は我日本人たるもの敢て懼るゝに足らず縱然露國人
にして我國を窺視せんとする如き野心ありとするも現今
露國の財政豈之を許さんや
一日余嘗て英國の陸軍中將某氏を訪ひしとき問ふて曰く
今英魯二國は北はホルラック海東は歐羅巴パルカン諸州
に於て相對せり又小亞細亞にありては土耳其と千八百
七十八年の條約によりて英國は現に之を防禦するの責

を有せり其他波斯、アフガニスタン等皆英國の防かざるべからざるの地なり又英國の同盟國たる支那は西比利亞と境を接して太平洋に至る迄兩々相對す然るに見よ先年クリミア戦争の際英國がボルネオ海に艦隊を送りたりしも毫もセント、ピーターズボルクを擣く能はざりしにあらざやクロンスタット、ヘルシングフォルスの砲臺は之を侵すると能はざりしにあらざや然らば則ち英魯の此地に於ける互に相譲らざるものあり又バルカン諸州に於ては英を助くる澳、佛、伊の諸國あり以て英魯相下らざるを得べし然れども小亞細亞に至りては英國は魯國に數歩を輸さるべからざるものあり何となれば魯國はバルツィムの軍港に十分の具備あり次に波斯國境に

至りては魯國は熟練なるウラツフ氏の如き外交官を遣はして其北をつき又アフガニスタン境界はモスコイ、セントピーターズボルクより九日の少日數十万の兵を送り來るとを得べし然らば英國は小亞細亞及び中央亞細亞に於ては全く敗戦なりと見做さるべからざる然るに太平洋に於ては英の東洋艦隊遙かに魯の東洋艦隊に勝りて三と二の比例をなせり况んや支那と聯結するに於てはウラツフは實に英の手中にありといふべし之を以て見るときは英の魯を制すべきは唯北太平洋に於てするのみ其他は勝敗あらざるか若しくは魯のため敗北を受けざるべからざるの有様あり知らず英國は何を以て此大勢に當らんとするかと

彼の將官乃ち答へて曰く
 勿論英魯の戦端を開くに當りては英國は一小局に於て必ず其破る所となるや明なり然れども大局に於て遂に英國の勝利に歸せざるべからず如何となれば今日一たび英魯の戦をはじむるあらんか十九世紀は軍器精備の時代なりと雖ども此等戦争は亞細亞歐羅巴の二洲に跨ることゆゑ一週二週若くは一月二月の短時日に其終りを告ぐる普佛の戦争の如きにあらず必ずや一年若くは二年の長きにわたるべし此長年月の間に於て遂に勝利の局に終るものは唯金銀の多少に決するのみ今日の大戦は金戦あり兵を送り糧食を送るの費用等を能く長く支へ得るもの則ち勝を制するのみ故に曰く若し戦争一

年を持續せば必然英國の勝利に歸すべしと現に魯國が一千七百七十八年及びクリミアの役以來財政の困難は人の知る所の如し假令今日稍之を回復し得たりとするも一旦此に戦端を我と開くに及ばん乎其外債の相場は忽にして下り非常の影響を財政の上に来すべきが故に魯國は必ず一年間其費用を支ふること能はざるべし英國は之に反して佛國革命以後は世界金銀の中心となれりされば英國は今假令其公債を起さんとするも十分に低利の公債を求むるを得べきを以て必然金銀の戦争によりて勝を魯國に取るとを得べし故に曰く英國は一小局に於て魯國のために破らるべし然れども結局英國の勝利に歸すべしと

以上將官の答ふる所考量の廣大なること實に駭服すべきの論にして之によりて見るも魯國が財政の困難は太平洋上に於ける暴力を制限するを知るべし大津事件も平穩に終局せり然かのみならず今後の時事たる一國間の問題に止まらず數國相關の事件なるが故に假令西比利亞鐵道成就したりとて魯國は其力を單に北太平洋のみに集むると能はざるなりよしや假りに威力を此間に専らにするを得るとするも我日本と商買上に於ける利害得失の關係多き英國のあるかり又舊友なる支那國あり我國は此等二國を唆動して而して當りなは彼の魯鷲をしてクリミヤの戦争よりも尙ほ慘澹たる困遇に陥らしむるを得べきのみ余嘗て魯國人某氏と談話せし際氏曰く

魯國は上下共に舉りて日本と和親せんとを希へり敢て干戈を動かして國土を蠶食せんなど野心は露だに之れあるなしと

余之に應じて曰く魯國は實に其企望を有せざるのみならず有する能はざる也何となれば縱然此等の野心を有すとも達する能はざればなり

是れ余が放談にあらず日魯兵を交ゆる時は前述の如き浦潮斯德港の形勢されは兵糧を黒海オデッサより輸送し軍艦をボルチック海より回送し而て漸く浦潮斯德に達する日は則ち我旭旗を己に西比利亞東岸に樹てたる後なるべし宜べなり彼のコルフ男及び大佐ウオロシノフ氏等が平生浦

潮斯徳の危険を心頭に掛けつゝ居ると又現に支那英國は
 互に密着同盟して一朝事ある時はロシアに當らんと爲し
 つゝあるを以て今此間に處するロシアが孤立して東洋に
 事を成さんとするは困難の事にして現在兵力の點より見
 てもロシアは幾分の弱點を免れざるは是れ明白なる事實
 なり此際に當つて若し日本國が支那英國と同盟する如き
 とあらばロシアは一層弱はるとは明白なる話なり故に今
 ロシヤか日本に和親を結ひなば假令戦争を爲さずとも
 シヤの位地は東洋に強めることを得るなり夫れ今日歐洲
 政治家の政略たる必ず戦争を爲すに非らずして其位地を
 保持する事を非常に務めつゝあるなり例へば彼の佛蘭西
 が兵員を増加すれば獨逸も亦之に應じて兵員を増加す

彼の獨乙、埃太利亞、伊太利と聯合すればロシアと佛蘭西之
 に對して同盟す今や十九世紀の歐羅巴人は戦争をなせば
 必ず損害ある事を知り實際戦争するを弭め唯平和に且つ
 國力を強め其間に威權を墜さざらん事を汲々是れ務め居
 る姿にして今日ロシアが日本に和親を結はんと欲する心
 底も即其政略に外ならざる也因で見らば彼の魯國は決じ
 て惡むべき國にあらず又恐るべき國にあらず否之を恐
 るゝが如きは愚の甚だしきものなりと謂はざるを得ず我
 國は宜しく之を利用して他の我の利を擅にせんとする英
 國の如きものを抑制するの大策を講ずべきなり故に余は
 西比利亞鐵道成功の速かならんことを希望するものなり
 西比利亞鐵道利用策は既に之を知りぬべし然と雖も若し

此利用政略を實際に施行せんと欲せば上下心力を合せて今日より之に對する準備をなさざる可らず手を束ね口を開きて待ちたりとて機運なる牡丹餅は棚より墜ち來るべきにあらざるなり故に余は先づ第一に海軍省の特に此事件に關して最も意を致さざる可らざるものたるを信ずるなり今試みに我國鎮守府の配置を見るに唯横須賀、吳、佐世保の三所に過ぎず室蘭、舞鶴の鎮守府設置の計畫は余輩既に之を聞けり然れども今日毫も之が着手を見る能はざるにあらざるや而して現時我國の國防的及び侵略的に實際に緊要なる用意は太平洋海岸に比して却て日本海岸にあるを知らざるべからず余輩は速かに舞鶴若しくは山陰北陸の一港を撰びて堅固の軍港を築き佐世保と相應じて魯西亞

及び朝鮮、支那に對する軍略を定められんとを願はざるを得ず又一方に於ては室蘭鎮守府の設けを速にして以て津輕海峡を守るの楯となし而して加奈陀よりウラシマストックに至るの航路及び香港、上海に至るの航路をも此にて抑ゆるをなす從て魯英兩國の勢を制するを得べし且つ又以上の問題に附帶して起り來るべき他の一問題あり即ち千島の防禦を嚴にする是なり曾て余の一魯人と相談し言たまはく樺太のとに及ぶや魯人は余の問に答へていひけるは

若し人樺太といふときは足下日本人等は直ちに此全島を以て日本の所屬地ありしと考ふるあらん然れども實際日本が領せし所は唯該島南端の一部に過ぎざりしな

り魯國は千島を以て之と交換し漸く境界問題を一定するを得たりしが之につきては魯國は寧ろ其益を得ざりしのみならず却て損失する所ありしといふも不可なきなり何となれば今若し日本を以て千島中に於て一良港を發見し依りて以て日本海及びオホック海を防止せらるれば恰かも魯國は網にて覆はれし如く其出所を失ふべし之に反して若し千島を有しなば該島によりて我船艦は自由に太平洋に漕ぎ出づべかりしなりとこれ固より外交上の言にて其真意の程は得て知るべからず其判斷は唯我心にあるとなれども兎に角其言語中大に考ふべき所あるは疑ふべからず今果して彼れの言の如くにして我國が千島に良港を築きて軍艦を備へ之を守らば

ラッコ密獵を禁ずるを得べきのみならず以て大に英魯を制するの形勝地たるべきは明なりされば海軍省は宜しく千島の各島を一々測量調査し良港たるべきの地を見出すと最も必要なりとす次に研究を要するは舞鶴は果して之を軍港として適當なるに如かざるかの問題はなり現在此地は軍港に定まれば雖然若し余輩をして言はしむれば我國が西比利亞鐵道を利用するには長崎港より最も近く且つ浦潮斯德港にも最も近き一の商港を要すべきが故に却て軍港は北陸或は山陰の地其所に乏からざるべければ舞鶴を以て商港となすも寧ろ必適なるにあらざるかを疑ふなり何となれ

ば西比利亞鐵道利用策は實に我國勢位地及び英魯二雄國
 を制するの如何も皆之により其關する所甚だ重大なれば
 なり已にこれ重大の問題にして輕卒に斷定し得べき事件
 にあらざるが故に最も海軍省が探討を遂ぐべき務なりと
 す而して之が探討をなさんとするには先づ海軍省は山陰
 若くは北陸の地方よりウラジストクに至る最近の港灣を
 見出して精密の測量調査をかさいるべからず此測量調査
 の十分に仕遂られたる後に於て始めて舞鶴の軍港たるべ
 きか將た商港たるべきかの問題をも決定せらるべきなり
 現に魯國の一外交官は曾て談話の際舞鶴よりウラジストク
 へに至るには三十六時間にて十分なりと云たるとあれば
 魯人は此間を以て兩國の最近航路なりと考ふると明けし

且つ又敦賀、新潟、箱館、下關、長崎等よりの航路をも測量して
 日本海に於けるウラジストク支那諸地に於けるの最近航
 路等を發見し英米其他の諸國の船艦も其往來常に此路に
 よるととなりたらんには唯に航海史上に於ける日本の名
 譽なるのみならず一方には直ちに我國の利害に關すると
 頗る重大なる者あり而して此航路に關しては全年風の方
 向より強弱の度及び降雨の如何其他寒暖等の諸件をも詳
 細に之を調査し以て郵船速達の便をも計らざる可らず
 日本海に於ける精密なる探穿の必要は實に如何程言を重
 めるも不必要にあらず見よ日本人か日本海及び朝鮮近傍
 の航海は一に英國の海圖によるにあらずや英人の巨文嶋
 を占領するや始めて其良好の地あるを悟り魯人のシカ嶋

を取りしとき始めて地圖を開きて之を探りてなほ且つ求
 め得ざりし程なりき自家の園中の者にてあるものを他人
 の爲に始めて知らざるゝなど之を愚かと云も餘りあり
 海軍に連帶して陸軍のなさゝるべからざることこそあれ
 これ大に我參謀本部及び陸軍省の考思を煩はさゝるを得
 ざる所にて即ち僅少なる時間を以て軍事上商業上の運轉
 をなし迅速なる働らきをなすことゝなれば陸軍省は先づ
 西比利亞に於ける軍隊につき其最も近きは何時間にして
 幾大隊を魯國が送り來べきか糧食は如何にすべきか等を
 明めて之れに對する兵策ながらざるべからざるなり然る
 に現今を以て之を考ふるに師團の所在地は廣島の如き大
 坂の如き名古屋の如き東京の如き仙臺の如き皆太平洋岸

にあるものゝみにして唯一熊本のみ西部にあるのみ安ぞ
 知らん我敵の在る所は却て太平洋にあらざりて日本海に
 あるを是れ余が我軍兵上の政略は常に多くは國防的に
 て進零的にあらざると云ふ所以にして我國にありては金澤
 兵營の外日本海岸又他の兵營のあるなしをばとて鐵道
 の敢て日本海に向て續げるものあるにあらざ魯國が西比
 利亞より突として來るや以て之に應ずるの備なく又我よ
 リウラヤストックを突くべき用意なし我陸軍省は宜しく速
 かに金澤其他の日本海岸に師團を好配し軍略上の鐵道を
 布設し且つ魯國の送兵送糧につき十分の穿鑿をなし一朝
 事あらば之に對して全勝を期するの豫策なかるべからず
 而して是れ即ち平時勢戦上の最好政略也

次に遞信省は又之に對してなすべき務のあるあり何ぞや
 即ち日本海に於て愈商船航路を求め且つ燈明臺の設置所
 をも今日より研究せざるべからず又此の如く他國の鐵道
 を利用し或は日本の國勢を斯の如くにして擴張せんとす
 るには郵船は須からく之を保護するの策を執らざるべか
 らず現に佛、獨、英、魯、伊、希、米、の諸國皆を保護策を採る就ては
 外國に於ける保護方法をも取調べ参考せざるべからざる
 なり且つ夫れ西比利亞鐵道利用のためには又大に汽船の
 速力を増を要するが故に其馬力は之を如何にすべきやを
 も考へ以て其利用を満足にすべきなり次に鐵道廳は又遞
 信省と結托して決行すべきは急行列車を發すると是なり
 急行列車を發せんには其軌道を廣からしめざるべからず

而して之を廣からしめんがためには其精算果して如何又
 大凡商港をも考へて此に達するの線路をも究めざるべか
 らず

此に特に遞信省が注意を要することこそあれ例へば今東
 洋諸國より歐洲に送らんとする郵便物の日本を通過して
 ウラジヤストクより魯國を横ざり去るとせんに人或は魯國
 は專制君主國なるが故に信書を發くことなしともいふべ
 からざれば郵便物は必ず魯國を過ぎずして路を加奈陀に
 取らんと然れども是等は未だ世界の趨勢を知らざるもの
 言にして決してさる危険あるものにあらず現に今日印
 度の郵便物か以太利佛蘭西を経て英京に達するにあらず
 や假令或は魯國が虛無黨の信書を發きたることありとす

るも外國の郵便物にまで手を觸るゝ如き理由なし然るに
 今若し之を恐れて加奈陀に路を取らんか一方に於て十日
 前後にして達すべきものか二十二日の長きを費すべし今
 日苟くも一日片時の差によりて商業上巨万の利損に關す
 る迅速の世界にありながら僅かにかゝる危みを抱きて特
 に加奈陀を過ぐるなどの事は到底余輩の排斥せざるを得
 ざるとす現に日本より歐洲に至るの電線は西比利亞を
 通過せり然れども在東洋歐洲人は皆之を危まらず佛人も英
 人も皆之に依りて其音信を往復するに非ずや見よ土耳其
 の如きは魯國に比して更に專制にしてなほ更に信書を發
 ぐの恐れあり然れども英人は或はエトランド河に沿ふて
 鐵道を通せんとするを賛成し又希臘の宰相トリクピル氏

は印度の郵便物を希臘に取りてサロニカより土を通じて
 澳大利に至らしめんとするの計畫あり夫れ此の如し又何
 そ魯國に向て此疑念を抱くを要せんや余が曾て歐洲大陸
 を游行するや魯國ほど正當の旅客を容易に通過せしめし
 國は他にあらざりし税關已に斯の如し其他の郵便物等は
 知るべきのみ然るに人或は戰時に於て魯國は皆其の信書
 を差押ふべしと危むものありと雖も戰はこれ變事なり戰
 時はこれ變時あり變時を慮りて平時の郵便物に迄懸念す
 る理あらんや現今歐洲列國の有様は以太利、澳大利、日耳曼
 の三國中央同盟を形造り（今年より六年間更に延期）英國又之を助くと雖
 も印度よりロンドンに至るの郵便物は以太利より敵地な
 る佛國を過ぎ來るも人毫も之を怪まざるなり况んや歐洲

の形勢たる一時に其變化を生ずるものにて中央同盟何時
 破れ來りて佛魯の同盟今日解くるやも亦知るべからず即
 ち昨日の同盟今日の仇敵となり今日の仇敵明日の同盟國
 となること固よりなしといふべからずされば以太利は何
 時英國の敵となり來るや亦未だ測るべからず是を以て郵
 便物は以太利を過ぐべからずといはんや又假令英國の郵
 便物は斷然加奈陀を通ずるとも敵國ならざる他國は必ず
 西比利亞鐵道を利用すべく英に敵せる諸國亦西比利亞鐵
 道に由て過ぐべきのみ以上は唯敵者に對する議論に過ぎ
 ざれども要するに實際上に於ては決して疑念を抱くの要
 ありざるなり且つ夫れ十九世紀今日の狀態より考ふるに
 赤十字社の如きありて敵人すらなほ且つ之を苦勞看護す

るの方法を設けたる今日に於て又戰場に出でざる上は敵
 國人とて漫りに害を加ふべからずとの法を萬國公法上の
 條款とし蘇士の運河をも局外中立の地とせんとするの趣
 向ある今日に於て假令戦時と雖も郵便物を差押ゆる等の
 措置あきよう他日萬國公法に加條するに至るや疑ふ可か
 らざるなり然り今日歐洲各國の狀勢を察するに戦時に於
 ても平時と同様郵便聯合國の郵便物を鄭重にせんとする
 の傾向あり豈區々の事情に拘縛されて大便宜を誤まるべ
 けんや
 海關稅及び旅客荷物の取扱に關する事柄は遞信省大藏省
 のなすべき仕事なり即ち愈よ西比利亞鐵道を利用するの
 曉には上陸せる稅關の取扱の方法及び貨物に關する取扱

によりて大に旅客の便否に影響を及ぼすべし例へば課税の標準等のときも今日より早く定め置くの必要あるべし此に一言して参考に供せんに余の歐洲を旅行するや急行列車に乗じて或る一國より一國を経て他國に入らんとするに其他國の或る停車場即ち余の止まるべき地に至る迄の切符を所持すれば國境に於て之れが荷物を檢視せざして其止まる所の停車場に於て之を檢視するなり是れ良法にして必ず採用すべきものたり然るに或は其中途にして荷物を下ろす等の恐れなきかを疑ふものありと雖も畢竟斯る心配は無用のことなりとす今之を警ふれば長崎よりしてウラジオストックに至らんとするに先づ其荷物を預けて切符を請取り而して旅客は船に乗じ荷物は別にウラジオ

ストック行の箋札を附して之を送るが故に旅客のウラジオストックに到着する迄は其の荷物に手を觸るゝとすらなければ決して密輸入等の恐あるとなしこれ等のは唯これ大藏省のなすべき所たるのみならず遞信省も亦之と連帯して荷物運送の方法并びに手續の省略法をも講ぜざるべからず又例せば此に長崎にて上陸したりとせん大坂若くは東京に至るの荷物あらんには殊さら長崎に於て之を檢せざるも大坂東京に至りて後之を檢するの法をも設くることと便利なるべし現に英國に於てもドバーに着したればとてチャリリング、ロースにて之を檢査するとを得るが如し之も密輸入の恐なきとは前派船の場合と異なる所なければ推して知るべし又遞信省は派船派車連通切手の便を計

るべきなり
 余輩茲に又一の希望あり何ぞや内務省が築港事業に一臂を振はんこと、是なり魯國に於て黒海のオデッサ、佛國に於てマールセル、カレ、イ國のブリンデシ、等何れも大艦巨舶を直ちに容るべき良港にあらざるはなし夫れ港灣の良不良は軍事及商業上に影響すると大なるものなれば何處にても良港を認められんには直ちに巨舶大艦を横さまに容れべき港の築き成さんこと切望にたへざるなり又一の望むべきは西比利亞鐵道落成すると同時に販路を擴張し得べきは茶なり彼の漢口より製造輸出する茶が利潤ある以上は我國より製造輸出して利分なしと謂ふの理あらんや宜しく其の製造方法及び販路等を探究すべきなり聞くが

如くんば中央茶業組合に於て其決議に由り試みに輸出し又探究員を派遣せんとすと此等は余輩の夙に贊する所なり又石炭の如き北國米の如き皆前途の好望なきにあらざり又特に多望なるは美術品なるべし夫れ美術の最も好愛さるゝは貧富の懸隔甚しき國にあり魯國は貧富の懸隔甚しき國なり而して巴黎人は常に言へり米魯の貴族金満家來りて時々黃物を撒するにあらざれば巴黎は寂寥たりと故に我國美術品にして魯國人の嗜好に投ぜば販路を擴張するに足るや知るべきのみ其他貿易品の如きも農商務省と人民と皆共に探查稽考して國富を策すべきなり次に又望む所は國會にあり善なれば則ち國家を光明界に致し惡なれば則ち國家を魔界に紹介するものは國會是な

り故に國會に私黨の搏噬を休め國家の大計を輔け日本を
 して對外の方策を確立せしめざる可らず内治小政は暫く
 之を置き私黨の搏噬より片見隻眼以て對外の方針を妨遮
 する等のとあらば是れ四面楚歌の亡兆なり苟も一國の興
 望を負擔して議場に現れ出でし代議士にして斯ることあ
 るべけんや凡そ國防より鉄道布設なり郵船保護なり又買
 易獎勵等の問題に關し一概に經費を減削するを單一の目
 的となさず詳查精議眞箇政治家たるの面目を全ふせよ
 如斯して官民上下相合し而して西比利亞鐵道を利用する
 に至れば其刺衝により各國との利害得失の關係自ら近直
 となる歐米各國と國利的の國際轉た重且つ大となるべし
 從て我日本國なる位地は甚だ重量ある位地となりぬべし

蓋し十九世紀末ある今日は國權等の論よかも寧ろ國利問
 題が國際の紛擾を惹起すに足り又之を解くに足る英相
 ード、サリパリ、侯曾て演説し曰く

十六七世紀の時代にありては國權毀傷王位續繼の問題
 のみにて國際の交渉を起せしが十九世紀の今日は實際
 の利害得失にて交渉を惹起すことゝなれり彼の澳太利
 亞とサトピアとの交渉の原因を探れるに這は豚の問題
 なり又ニウフォルランドに於ける英佛の國際問題は何
 あるかと尋ぬるに漁鯨に原由せるなりペーリソング、シ
 に就て英米の交渉は何なるかと言は「ラッコ」なりと
 又オックスフォード大學理財教授コーンヤス氏は曾て日本條
 約改正の手段を余に語り曰く

今や日本人は國權蔑視云々を楯として我英國に條約改正を申込も余の考ふる所に由れば甚だ拙策たるのみ日本に於て條約を改正せんとならば實際問題よりして持込まざる可らず即ち英國多數人民を動かすに足る實證を持ち來りて説破せざる可らず實際問題とは何ぞ即ち少數の英國居留人民は特權を得つゝあるも條約を改正するにあらざれば日本人の感情を悪くし且東洋に於ける全英人民商業上衰退を來たして大なる損失あるべし等のことを云ふなり多數人民動き初めて英政府動く嗟呼是れ頗る英國人民當時の實情を穿ち得し切評にして今日にありて條約改正を成就せんと欲せば是非とも此點より衝き入らざるべからず然るに日本に於ては猶ほ國權

云々裁判權云々を以て而して楯據となし天晴れ條約改正を成就せんと欲す英人此に由て豈動くものならんや若かず實利的問題よりして撞破せんには此等の事たる我國外交上の歴史を觀るも亦明瞭に確知するに足るべし彼の副鳴伯爵か外務の衝路に當りて國別政畧を執りし際明治六年に伊太利國より我國に於ける内地の旅行を自由ならしめは領事裁判の管轄外は我國の裁判に服従すべしとの趣旨を申込みしを以て歐米諸州の外交官は大に驚き且つ怪みたり而して伊國は何故に斯る事を申込みしか仔細に探究するに即ち國利的の觀念其基となり居るあり當時我國の蠶種を彼地に輸出せしに頗る好評を得て大に利を博したりしに由り彼の伊國商人等は居留地の小區域に居り仲

買人の手を経て買占むるを利益薄しとあし深く内地に入りて自から買占め而して巨利を博するを得は區々たる治外法權何にかせんどの實利主義より此に及びしなり
 又昨年亞米利加はマッケンリーの海關稅則を定め英國と商戰の準備をなせり(東方策附錄英米二國の商戰百七項參照)當時英國政治家及び有力なる實業家の意見は

亞米利加は南亞米利加諸州を同盟とし英國は加那陀、濠洲ニウゼランド西印度諸州を同盟とし二國勢數殆ど齊し此均勢は毫末の力能く動かすに足る此勝敗の決は實に日本にありて存ず日本にして米に與みせんか英國は大敗なり日本にして英國に與みせんか英國は大勝なり熟らく現今の機運を察するに日本は將に米國に與み

せんとするの勢なり故に今に於て日本を我英國に與さしめんど欲せば日本の歡心を米國より奪はざるべからず如何にして日本の歡心を買ひ得べきかと言はい條約改正より好きはなむ何となれば日本全國の民心は只管ら條約改正の中心に向て傾き居るなり而して我英國は毎に之に反對しぬ惟ふ是れ日本の歡心を得る上に就て得策にあらざ區々たる千人未滿の居留地の利を保護して全英國の大利を棄つるは國家經濟を知るものにあらず故に日本の歡心を求め日本をして我英國に與さしめ天晴れ米國との商戰に打勝たんと欲せば少數なる居留地英民の利を犠牲に供し全國の大計を成就せざるべからず

右意見は英政府之を探りて我條約改正に對施せしや否やは我外務の當局者は知らざるならん然れども若し之を知らんと欲せば横濱居留地外人が非條約改正の運動を見よ故に余東方策附録英米二國の商戰論の結末に於て曰く
 英米商業的戰爭の漸く盛なるに及んで之に處して勝敗の機を動かすに足る者は果して那邊にあり乎他なし我日本是のみ夫れ日本は其海國たるの狀英國と異なる無く加ふるに支那合衆兩大邦は我の左右に侍して我商業的運用の術をして緊弛自在ならしむる者の如し日本人たる者曷ぞ以て英國が歐洲兩大陸に於けるが如き偉大の功績を東海の端に再演し得ざらん耶此有望の一國にして亞米利加を助けん乎英吉利は爲に失敗を取らざるを

得ず又之に反して英國を助けん乎亞米利加亦爲に失敗を取るべきは免る可からざるの數にして明々瞭々鏡に懸けて睹るが如し事能既に斯の如し我國は世界の商賣勝敗の主權を握ると云ふも決して不可なき也日本人たる者今日此地位に在り此時機に會して此點に向て専ら利害得喪を講究し以て之れに處するの方法手段を策するときは英吉利を壓倒する易く亞米利加を蹴破する亦難からず其れ須らく此地位を將來の爲に利用して國家百年の長計を就さいる可からざる也區々たる死律文法の末に齟齬して退屈嬰守自ら立ち自ら恃む所以を亡失する如きは誠に千載の笑のみ
 夫れ東方策を著せるや余は總て此の如き形勢を稽考して

而して論ぜり故に世の東方策を一見せし君子は必ず眼を
 此邊に著けて活讀されしなるべしと余は大に満足に思惟
 し居るあり果して如何
 凡そ條約改正の如き一時の外交問題は國家百年の對外策
 にして確立せば恰も氷雪の陽光に逢ふ如く看る融解
 し去るものなり故に一時の外交問題復た何かあらん男兒
 的政治家が唯張目すべきは永世の對外策にあるのみ我國
 今にして此處に猛然として省顧する所なくして夫れ可な
 らんや所謂永世對外の策とは何ぞや國利的の交際を隆盛
 にする是也即ちカナダに於ける合衆國に於ける鐵道をも
 利用すべくニカラガ、パナマ等の運河をも利用すべく且つ
 澳大利利亞及南洋諸島の交通を盛にし支那鐵道の開けし

各地の商業を考へ更に西比利亞に一大市場を拓き西比利
 亞鐵道を十分に利用する如きは其最なるものなり一魯人
 曾て西比利亞鐵道の日本に及ぼす結果を余に語て曰く
 一筋の絲と雖も其括り目は他より太きにあらざや惟ふ
 に日本はカナダ西比利亞二鐵道の括り目にてあるあり
 是を以て之を推せば貴國將來の雄大察するに足るべき
 のみと
 實にそれ然り我日本は加那陀西比利亞二鐵道の括り目な
 るのみあらざニカラガ、パナマ、澳大利利亞、支那、合衆國等諸
 絲筋の括り目にてあるなり試みに歴史に徴するにパサン
 テン帝國のコンスタンチノールに於ける羅馬帝國のベ
 ニスに於ける又現今英帝國のロンドンに於ける皆以上の

如き括り目に居りしに由りて其隆盛を致したり然らば我
 日本將來ほど多望なるものはおし我日本國は世界の雄
 邦たるべき好地位にあり我日本人は世界の巨人たるべき
 好地位にあるなり嗚呼是れ千載の好機にして偏へに天が
 我日本民族に恵與し給はる實期あり然るに優柔不斷卑々
 焉屈々爾どして離人形然たる都人的に腐化し速かに此夫
 の惠與に乗じて其之を受くるの策を講ぜずんば是れ則ち
 天に違ふものなり夫れ天に違ふものは亡ぶ古語鑑むべき
 なり

西比利亞鐵道論終

貨幣	尺		距離	横面積	斗		實分厘	每	重量
	寸	分			一第	二第			
露 亞	ルーブル	—	カイロスト	テシヤ	—	—	—	—	—
	— (100)	—	— (100)	—	—	—	—	—	—
日 本	圓	—	里	町段	石斗	石斗	—	—	—
	錢	七	町間	畝步	升	升	—	—	—
	—	七五	尺	合	合	合	—	—	—
	—	—	寸	勺	勺	勺	—	—	—
	—	—	分	抄	抄	抄	—	—	—

日露貨幣度量衡比較表

明治廿四年八月廿八日印刷
同 年八月廿九日出版

版權登錄



兼著者
兼發行人

長崎縣士族

稻垣滿二郎

東京市北豐島郡日暮里村
元谷中本村千百卅五番地寄留

印刷者

根岸高光

東京市牛込區市夕谷加賀町
一丁目二十三番地

發行所

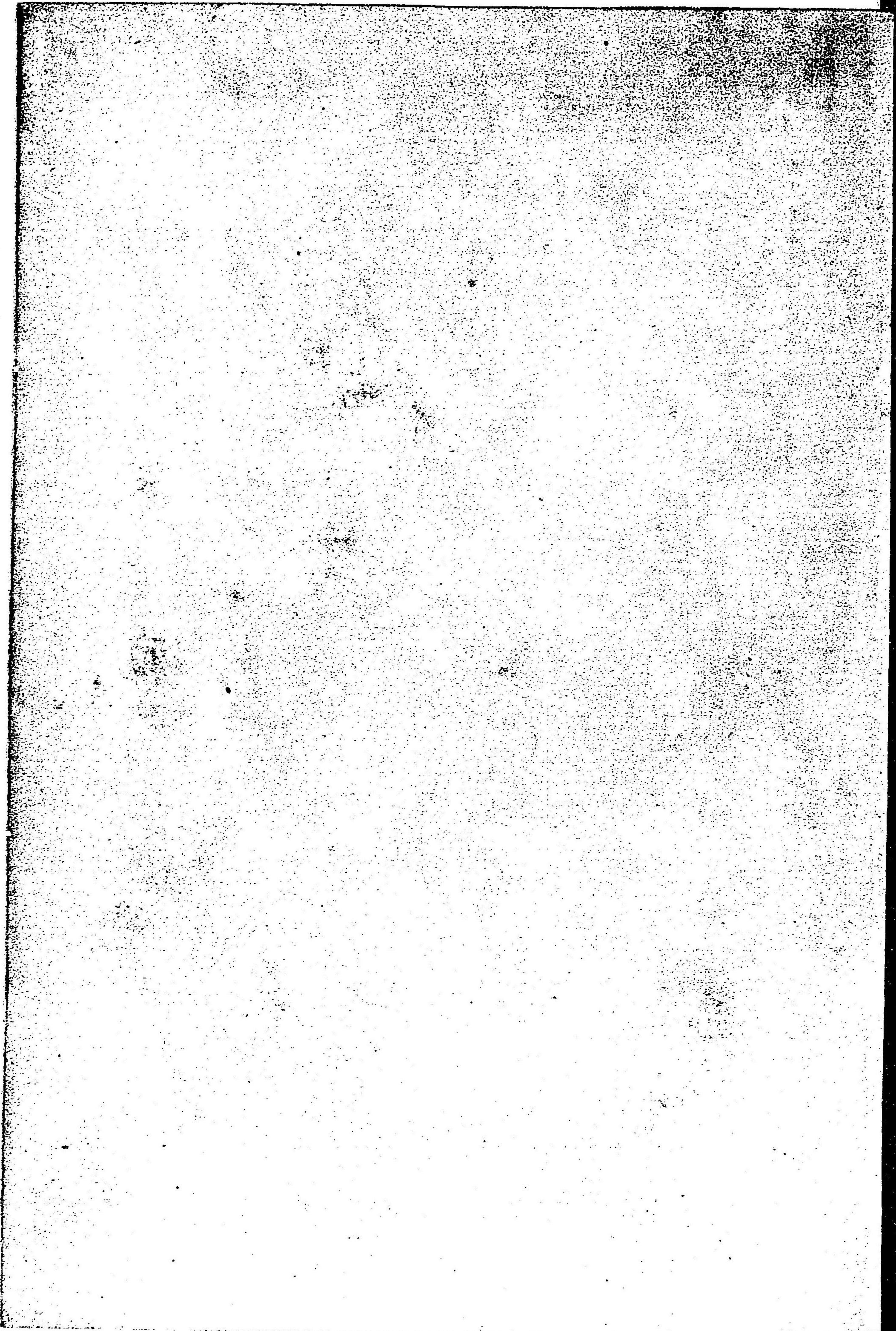
哲學書院

東京市本郷區本郷
六丁目五番地

印刷所

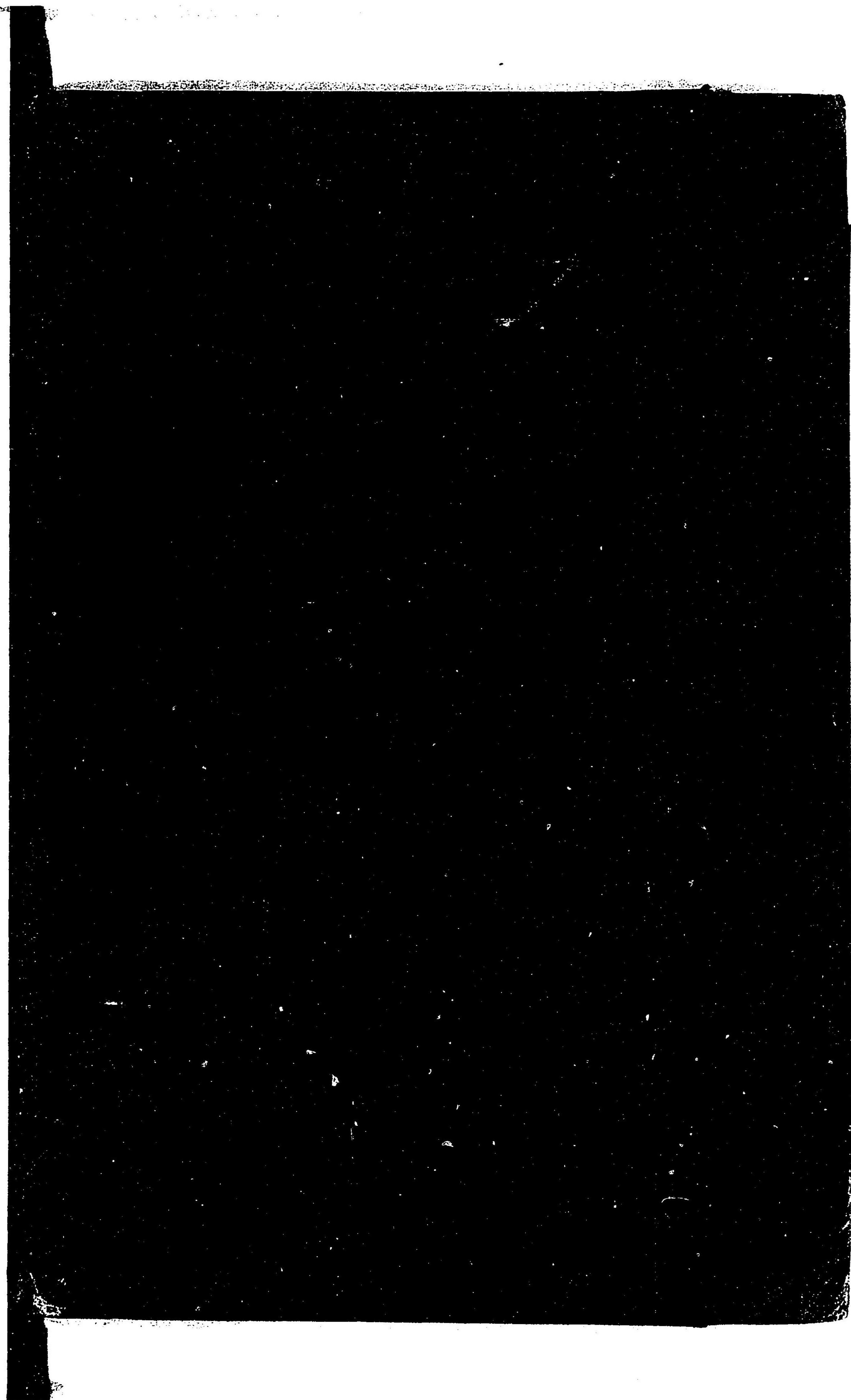
秀英舍

東京市京橋區西紺
屋町二十六番地



此書係由... 刊印... 凡欲購者... 請向... 函購... 每冊... 售價... 郵費... 另加... 凡欲購者... 請向... 函購... 每冊... 售價... 郵費... 另加...

68
2
69



68
69

045015-000-8

68-69

西比利亞鐵道論

稻垣 満次郎 / 著

M24

BDP-0201



